

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 20号

2012/10/15 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、ガーナ、カカオ豆出荷価格引き上げ＝コートジボワールからの密輸増加に懸念(10/12)

ガーナのドゥフォー財務・経済計画相は12日、2012/2013シーズンのカカオ豆の政府買い上げ価格である農園出荷価格を1トン＝3392セディ（約1795米ドル）とし、前年度の3280セディから引き上げたと発表した。

隣国コートジボワールの出荷価格（同72万5000CFAフラン＝約1430米ドル）を25%超回るため、両国で密輸が増加する可能性が懸念されている。コートジボワールはカカオ豆部門の抜本的改革に取り組んでおり、10年余り続いた自由化に事実上終止符を打つ方針だ。

ドゥフォー同相は新作物年度の開始にあたり、コートジボワールとの価格差が密輸につながる公算が大きいことを認めた上で、ガーナ産カカオ豆の現行の品質管理体制を拡大する意向を明らかにした。

農場出荷価格の引き上げは、農家の収益性を高め、農場への再投資を促す。同相はその財源の一部は、輸出関税で賄われていると述べた。同相は「政府は輸出税の割合を大幅に引き下げ、生産者価格を引き上げることを決めた」と付け加える一方、政府が他のカカオ豆産業支援策を縮小する可能性については明言を避けた。

### 2、LDN、NYカカオ相場ともに3日ぶり反発＝欧州カカオ豆磨砕高の統計控え(10/13)

ココア先物は3日ぶりに反発。来週16日予定の欧州の第3四半期カカオ豆圧砕高統計の発表を前に、序盤は売りが先行したものの、その後は切り返した。

市場予想は前年同期比15～20%の減少。トレーダーらによると、欧州の圧砕業者の一部は、需要低迷により、短縮操業を継続しているという。

ニューヨーク市場の12月きりは、15ドル（0.6%）高の2366ドルと3日ぶりに反発して終了。一時は7月31日以来の安値となる2338ドルまで値を下げた。200日移動平均の2341ドル近辺では、下値が堅いという。ロンドン市場の3月きりも、5ポンド（0.3%）高の1532ポンドと、3日ぶり反発で引けた。一時は7月18日以来の安値となる1519ポンドまで値を下げた。

### 3、アジア市場；クリスマス、バレンタインデー控えバターのレシオは徐々に上昇(10/10)

アジア市場でのココアバターのレシオは、クリスマス、バレンタインデー需要を控えて、直近積みのバターの価格は底堅く、先週よりも徐々に上昇している。

現在のレシオは、ロンドン先物市場価格に対して、1.45から1.47。先週は1.45あたりが見られたが、今週は既に1.47での商いが増えてきたようだ。トレーダー筋は在庫数量も潤沢ではないことから、2013年の前半まではこのトレンドは続き上昇傾向であろうと予測している。

### 4、輸出業者コートジボワールの新物に品質問題を懸念。政府の輸出品質基準強化が影響(10/12)

2012/2013の新シーズンでコートジボワール政府が新たに導入した品質基準の強化策の影響でメインクロップの早い入荷分のカカオ分について、基準以下で却下されるカカオ豆の比率が高まるだろうと輸出業者筋は予測している。

新シーズンは、輸出向けのカカオ豆に設定されたこれまでより厳しいカビと水分値の最大許容値の変更を含む大幅な構造改革の基、先週からスタートした。

今回の主たる変更の狙いは、品質レベルを向上させることである。この12年間でコートジボワールが進めてきたカカオ産業自由化が結果として徐々に品質評価の低下に繋がり、現在では世界第2位のカカオ生産国の隣国のガーナに比べ品質面で劣るとされている事に対して、コートジボワール政府は改善の必要性を感じている。

コーヒー、ココア評議会（以下、CCC）はカカオ豆の中の**カビ豆の最大許容値を昨年までの8%から4%へ、水分値は12%から8%へ其々基準値を厳しく設定した（共に輸出時の数値）**

『品質改善は今回の構造改革の中のキーポイントの1つで、カカオ豆を港で受け取る前に仕組化した検査体制で品質検査が実施されるだろう』とCCCの役員は語る。

『9%以上の水分値がある全ての貨物は自動的に却下される検査体制になっている』同役員は語る。

しかし、一方で輸出業者は、CCCは新しい港湾での品質検査体制を整えたとしても、農園段階での教育やトレーニングを通じて事前準備をしっかりと行っておらず、結果として生産者自体は昨年までと何ら生産方法や管理姿勢を変えていないと問題を指摘している。

『発酵は6日間の所を2、3日で終えてしまっているし、カカオ豆は頻りにすごく高い水分値で販売されているよ』アビジャンに拠点を構える欧州系の輸出業者は説明する。

『多くの生産者は品質の良いものの作り方を知らないか、忘れてしまっている。もう一度高品質なカカオ豆の生産方法に慣れるまでは時間がかかると思う』彼は続ける。

『これは、現在既に集荷業者の資金不足で集荷が遅れているメインクロップの最初の時期に問題を引き起こす可能性があるだろう。というのも、10月の第1週段階ではまだアビジャンとサンペドロ港に新物の貨物は運び込まれておらず、現在の生産地区に在庫されている貨物は10月末か、11月初旬に向けて港へ引き取られるだろうと予測されている。これらは既に袋詰めされたカカオ豆でこの中には新しい品質基準に対応していない許容値を超えた品質のものが含まれているだろう。』

『おそらく、最初の2カ月は港に到着した貨物の少なくとも30-40%は品質基準によって却下されるだろう』別のアビジャンで活動する輸出業者は言う。

『その後、徐々に生産者が品質基準の変更に気づき、注意を払うようになることで、1月くらいからの着荷分は10-20%くらいの却下率となっていくだろう』彼は言う。

コートジボアールのメインクroppは10月から3月の終わりまで続き、その内年間の総生産数量の約半分に相当する60万~70万トンは10月から12月の間に港に運ばれる。

コートジ国内で磨砕工場を運営している会社への国内納品分に関しては、今回の基準は適用されない為、当初は輸出用の品質基準に不適合なカカオ豆が国内磨砕工場向けに沢山出回り、輸出業者は供給が不足するのではないかとの予測が出始めている。

『もし、我々輸出業者が全ての不良品を却下したら、それは中間にいる集荷業者が生産者へ圧力をかけることに繋がるだろう。これにより関係者全ての対応が今シーズンは変わらざるを得ないだろう』とサンペドロ港に拠点を置くカカオ豆の輸出業者の仕入担当役員は説明する。

### **5、第3四半期の欧州カカオ豆圧砕高、前年比15~20%減の見通し=トレーダーら(10/11)**

複数のトレーダーとアナリストは10日までに、欧州ではチョコレート需要が債務危機を背景に低迷しており、第3四半期のカカオ豆圧砕高は前年同期比で15~20%減少するとの見通しを示した。欧州ココア協会(ECA)の統計では、第2四半期のカカオ豆圧砕高は同比17.8%減で下落率は過去最高となっており、2四半期連続で急減となる可能性がある。

ドイツのあるカカオ豆トレーダーは、市場回復の兆しは見られないとし、「複数の圧砕業者は生産を削減、ドイツ国内の大手圧砕工場では、労働時間を短縮している。製菓需要は低く、輸出も減少している」と述べた。

別のトレーダーは「ユーロ圏危機が終息する気配はなく、イタリアやスペインなど南欧ではチョコレートの消費が著しく低迷している」と指摘した。また、英・市場調査会社ミンテルは、2012年の世界のチョコレート市場を845億ドル規模と予測する一方、西欧市場は前年比約5%減少するとの見通しを示した。ECAは16日に、欧州の第3四半期のカカオ豆圧砕高を発表する予定。

### **6、ナイジェリアのカカオ豆収穫、豪雨で遅れ=品質低下懸念が価格を下押し(10/10)**

ナイジェリアのカカオ豆主産地では、豪雨と日照不足の影響で、2012~13年度の収穫作業が少なくとも1カ月遅れる見込みだ。農家とアナリストが9日語った。

収穫は9月末に始まる予定だったが、天候不順のため、実の乾燥が難しいと不安視した農家が、収穫作業を保留している。

ナイジェリアは半世紀ぶりの深刻な洪水に見舞われ、農地の広い範囲が浸水した。ジョナサン同国大統領は9日にテレビ演説し、被災者支援を明言した。

ナイジェリアのカカオ豆生産者協会(COPAN)は先月、豪雨を理由に、今年度の生産見通しを30万トンから25万トンに下方修正している。

15年をめどに50万トンまでの生産倍増目標を掲げている政府は、カビによる作物の病気対策や増産

を支援するため、農家に改良趣旨を配布し、肥料や農薬に補助金を拠出している。

ただ、国内第2の生産地クロスリバーの農家は、政府の支援にもかかわらず生産コストは上昇していると指摘し、豪雨で農薬が流れてしまったため、再噴霧が必要だとコメントした。熟した実に「こぶ」が出始めれば、品質も低下するとしている。COPANのサイナ・リマン会長が当地で開かれた会議で語ったところによると、今年度の農場出荷価格は1トン当たり平均34万ナイラ（約2200ドル）と、豆の品質低下予想を受けて前年度の37万ナイラから低下しているという。

### **参考記事) チョコレートを食べるとノーベル賞に!?**

全てのチョコレート関係者が信じないような、そんな変わった研究論文が世界的に権威のある医学誌の記事として掲載された。

“チョコレートの1人当たり消費量が多い国ほど、人口当たりのノーベル賞受賞者の数が多い”と医学誌ニューイングランドジャーナルの記事は伝えている。

スイスがこの分野では1位で、続いて僅差でスウェーデン、デンマークと続く。米国は中間的な順位でもう1人ノーベル賞を輩出するには国全体で、年間12万5千トンまでチョコレートを消費しなければならないと、この分析をした Franz 氏は説明する。

スイスでは、男性も女性も子供も平均した消費量で1人当たり、年間85gの板チョコを120枚も食べている。

Franz 氏は、全体の構想自体は馬鹿げたものである認めながらも、データは合理的であり、科学が陥りやすい点について教えてくれるものであるとしている。

彼は、この考えは、カカオやワインに含まれる抗酸化物質の1種であるフラボノイドが認知テストにおいて良い記録を出すという研究を見た後に思いついた。

彼は23カ国のチョコレート消費量に関するデータを調査し、その後、人口当たりのノーベル賞受賞者の数をリスト化していった。

『私は、この調査をカトマンズのホテルでスタートさせました。なぜなら、何もすることがなかったからなんです。でも自分の目を疑いました。全ての消費量の多い国がほとんど例外なく、ノーベル受賞者の数を示したグラフと一致したのです。』

全ての論理的な考え方を侮辱するような関連性を科学者が見つけたのは初めてではない。実際、コウノトリの数が多い国が、出生率が高い、であるとか、太陽の黒点が人間の自殺と関係があるとか。

またあまり意味はないけれど、もう1つ現実と繋がりが強い可能性がある。

『国の1人当たりチョコレート消費量は、国の豊かさに関連している、そして高度な研究は国の豊かさに関連している』と2001年にノーベル物理学賞を受賞した Eric 氏は言う。

『よって、チョコレートの消費量は、高度な研究と関連性が高いと言えるが、因果関係が証明できる関連はない』

チョコレートの関しては、いくつもの研究でダークチョコレートは脳や心臓、ダイエット効果もあると

提案されている。

前述の Franz 氏はスイス出身でチョコレート好きだか、皮肉交じりに、『チョコレートは本当に健康効果があると信じているよ、でもスイスチョコは控えるようにした方が良いね』という。

『個人的には、ミルクチョコレートはあなたに良くない影響を与えると思う』自分の成功がこれまでに食べたチョコの多さに起因していると考えている Cornell 氏は言う。

『これからは、ダークチョコレートを食べるべきだね。もし君が医学や化学でノーベル賞を取りたいなら何を食べていても良いが、物理学や自然科学の分野で受賞したいならダークチョコレートを沢山食べない』

しかし、別の研究者は、チョコレートに関するこれらの証拠は十分な物とは程遠いと言っている。『確かに、私はダイエットをするのにチョコレートを食べた方が良いというのはこれまで一度も見たことがない』他の研究者は反論している。

**\*現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は次回フェアトレードラベル・ジャパン様へのインタビューを予定しており、継続しておりますが、今週は引き続き、お休み致します。**

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp